

中国における専門職学位の動向

陳 曦

<要 旨>

本稿の目的は、中国における専門職学位の發展現状を明らかにし、アメリカのそれを参考に、中国における専門職学位の制度上の課題を探り、そして、専門職学位の發展趨勢、更には中国大学院の拡大構造を推測してみることである。

専門職学位は1990年代の初めに中国で正式に学位の一種類としての地位を得た。近年、中国の大学院の拡大につれ、専門職学位の入学者数も大きく増大してきた。現在、専門職学位の入学者は大学院生全体の29.2%を占め、そのうちの75.5%が社会人学生で、中国大学院教育の構造に大きな変化を及ぼしている。高等教育の規模拡大を背景に、学術学位を取得した者の就職難が次第に浮上し、一方、実用型の高度専門の人材が不足している。先進国のアメリカの高等教育供給市場を見ると、大学院教育、とりわけ修士レベルでは、学術学位教育より専門職学位教育が圧倒的に多いことが分かる。本稿はこうした事情を踏まえ、アメリカのそれを参考に、中国における専門職学位の發展趨勢を推測し、今後の中国大学院教育の構造に示唆を与えたい。

1. はじめに

周知のように、20世紀の終わりから、中国の高等教育は大きな拡大を迎えた。中国教育事業發展統計公報¹⁾によると、2008年に中国高等教育の規模は2900万人を超え、アメリカの高等教育人口よりも多くなり、世界一の高等教育人口を有する国になった。こうした高等教育の拡大は大学レベルだけではなく、大学院レベルでも募集拡大が倍増している。現在中国の大学院課程で勉強している人は大きく2種類に分かれている。一つは全日制

中国華東師範大学高等教育研究所・講師
名古屋大学教育發達科学研究科・外国人研究員

で、理論的な勉強を重視し、学術研究を通して、学術学位を取ろうとしている学生で、彼らを取る学位は学術学位(Academic Degree or Research Degree)と言う。もう1種類は応用、実践を重んじ、高水準の複合型人才になるための学生で、彼らを取る学位は専門職学位(Professional Degree)と言う。両者の比例を見ると、学術学位を取る学生が7割ほどを占め、圧倒的に多いことが分かる。

専門職学位の現状、重要性、または課題を分析する先行研究は散見する。別、趙(2009)は専門職学位と職業資格、学術学位との関連から、専門職学位の定義を明確にし、専門職学位の特徴を三つに要約した。すなわち、職業性と学術性の統一、特定の職業志向性、教育の実践依拠性である。邹・陳(2000)は工程修士、法律修士、工商管理修士(MBA)、建築修士、教育修士の5種類の専門職学位の誕生及び発展について概述し、専門職学位の実践性、職業性、総合性という基本属性を見出した。翟、王(2006)は専門職学位の基本的な属性、教育レベルの位置づけ、学術学位及び職業資格との関連、規模、構造、効果と利益、質的保障システム、国際化と本土化などに関する問題点を明らかにしようとした。いずれも理論的な分析に留まり、現状をどこから把握し、論文の結論に至るかは不明確である。

中国の専門職学位制度はアメリカを習って生まれたもので、アメリカの経験を見ると、大学院教育では学術学位を取ろうとする学生よりも専門職学位を取ろうとする学生が多い。専門職学位が発足して20年近くなる中国ではそれと逆の状況が見られる。そこで、本稿は可能な限りにデータを収集し、中国における専門職学位の現状を明らかにし、アメリカとの比較から、中国における専門職学位の制度上の課題を探り、専門職学位の発展趨勢を推測してみる。

2. 中国大学院の量的拡大の状況

中国の高等教育は文化大革命によって破壊され、1978年からその復興が図られた。大学院生の募集もその年から始まったが、最初は修士課程だけで、博士課程の募集は1982年から始まったものである。

図1は中国教育事業発展統計公報のデータによって作成した1995年以來の中国大学院の拡大状況である。これによると、1998年、つまり、中国高等教育の大規模な募集拡大政策が打ち出された年²⁾を境目に、その前後の発展趨勢は大きく異なっている。1998年には約7万3千人しか大学院に入

学できなかった。うち博士課程は1万5千人弱で、修士課程の学生は5万7千人であった。またこの図から、1998年より以前の数年間に大学院生の増加は非常に緩やかな成長をしなかつたことが分かる。しかし、1999年からは爆発的な発展を遂げ、10年後の2008年になると、修士と博士を合わせて、44万6千人が大学院に入学した。うち、博士課程は約6万人で、1998年の修士課程の入学者よりも多かった。修士課程は更に1998年の6倍以上の38万6千人まで増加した。高等教育の規模拡大は大学レベルだけではなく、大学院レベルにおいても実現されたことが言える。一方、8倍ほどの大学進学者数の増加にもかかわらず、大学院教育を実施している高等教育機関数の増減は非常に小さく、700から800の間で推移している。このことから、中国大学院の規模拡大は機関数の増加による拡大ではなく、一機関あたりの規模拡大によるものと推測できる³⁾。

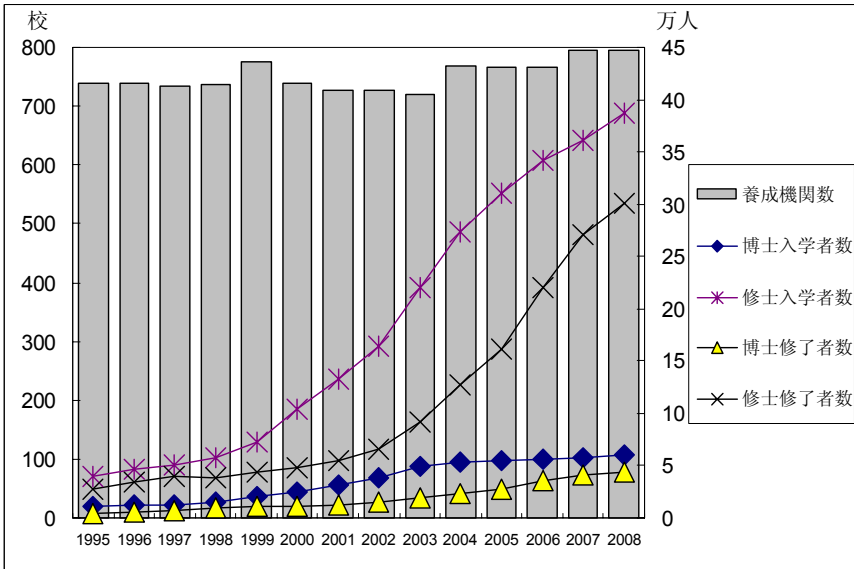


図1 中国における大学院の拡大状況

前述したように、大学院で授与される学位は学術学位と専門職学位がある。しかし、大学院制度が発足した1970年代の終わり当時の中国には高等教育機関の教員及び科学研究に従事する人材が非常に不足していたため、学術的な学位のみが授与されていた。では、専門職学位教育はいつから大

学院教育の一部になったのか。その実情はどのようなものであろうか。

3. 中国における専門職学位の現状

3.1 専門職学位制度制定のプロセス

1980年に『中華人民共和国学位条例』が頒布されたことで、中国の学位制度が法律によって保障されるようになったが、当時の社会的需要から、学位は全て学術学位で、大学院教育は高等教育機関の教員及び科学研究に携る志向を持つ者の養成を主な目的としていた。しかし、その後、科学技術の発展によって一部の職業の専門性がますます高まり、高度専門的な職業人材の養成が次第に重視されるようになり、学術研究のほかに、実践能力の養成も注目され、より高水準の教育が必要となった。このような実践的な専門人材を養成するのが専門職学位教育の役割である。

これによって、中国における専門職学位の試行が1984年から始めた⁴⁾。1984年11月、教育部は西安交通大学で座談会を開き、大学院生教育の単一性に焦点をあわせ、大学院生教育が社会経済建設の需要に対応できなくなっていることについて検討した。そこで、清華大学、西安交通大学等11の工学関係の大学が『工程修士大学院生を養成する提案』を出した。それが技術者になる工程修士、すなわちエンジニアを養成し始めたきっかけである。さらに、1986年からは医学教育改革に伴って、教育部と衛生部が科学研究能力の養成を目的とする医学博士の他に、実際の臨床能力を持つ者を養成し、医学博士（臨床医学）を授与する通達を下した。しかし、ここまでの試行は専門職学位が制度化される前のもので、一部で実験的にするに過ぎない。

1990年、国務院学位委員会は審議をし、それまでは職業学位といったものが専門職（專業）学位となった。それは学位の主な役割は学位獲得者の学術水準を認可することで、人事制度に関しては特殊な職業に従事する必須条件を規定していなかったためである。つまり、例えば医者、エンジニア、弁護士などの職業に関して、専門職学位の職業志向は明らかであるが、その学位がなければ、その職業に従事できないわけではない。それが専門職学位と職業資格との結び付きを薄くしてしまったと言わざるを得ない。また、同審議会でも、正式に専門職学位を始めることを決め、翌年から募集を始めた。

更に、1992年に国務院学位委員会は専門職学位証書の授与を決定し、学

位制度が新たな一步を踏み出し、中国においても学術学位の他に、専門職学位が存在するようになった。しかし、もともと特定の職業を想定して創設された専門職学位にもかかわらず、学術水準を認可するもので、特定の職業に従事する必須条件ではないことが学術学位と職業学位としての専門職学位との区別を曖昧にし、後に専門職学位が重視されない要因の一つにもなった。

1996年に、国務院学位委員会第14回会議の審議で『専門職学位審査許可に関する暫定的方法』（以下『方法』）が通過され、専門職学位に関する設置目的、特徴、レベル、審査許可、養成、管理等に対して制度化した規定を下した。専門職学位は職業背景を持つ学位で、その目的は特定の職業に関する高い水準の専門的人材を養成することで、学士、修士、博士の三つのレベルに分けられるが、普通は修士に限る。この『方法』は中国の専門職学位を軌道に乗せることに積極的な役割を果たした。翌年から社会人を対象とする専門職大学院生の募集が始まり、専門職学位は社会人の教育レベルの向上を目指す一つ的手段となった。

日本の場合、大学院入試は各大学院ごとに実施することになるが、中国では、正規の大学院段階の第一次試験も全国統一入試になる。専門職学位教育の入学試験は複雑で、現在、専門職学位の入学試験は教育部学位及び大学院教育発展センターが中心になり毎年10月に実行する連合試験、と教育部学生課が中心になり毎年の初頭に実行する統一試験がある。ただし、EMBAに関しては連合試験しかない。連合試験は前述のセンターや地方の学位委員会の指導の下で、いくつかの募集機関が連携して自主的に試験問題の作成及び実施を行うことを指す。連合試験も統一試験も国家レベルの試験であるが、10月の連合試験の募集枠が比較的に緩やかで、一部では募集機関自身によって決められる。これに対して、統一試験の募集枠は全国の大学院生募集計画によって決まるので、比較的に制限されている。教育資源が限られるため、現在いずれの試験で入学した者も同じ教育を受けるのが一般的である。

しかし、統一試験で入学した学生は学業終了時に二つの証書、すなわち学歴証書と学位証書が授与されるが、連合試験で入学した学生には学位証書しか授与されない。これもまた同じ教育過程を経たが、入学時の違いによって、終了する時まで影響を及ぼしている。日本や欧米諸国では、学歴証書と学位証書を区別しないで、学位証書を持つことでそれと同じ学歴を持つことになる。中国では、この二つの証書を別々の物と見なしている。

これは中国の特色であるとも言える。学歴証書は学習する過程を重視するもので、学位証書は学習して達したレベルを証明するものである。一般的に、全日制課程を経て修了した学習者は両方の証書を持つことになる。学位証書しか持たない場合は、ある学習（非全日制、非正規）を通して、その学位相当の学力を持つことになったことを意味するが、どのような過程を経て取得したかは問わない。専門職学位教育は社会人学生が7割以上で、非全日教育も多いため、学位証書のみ授与するケースが多い。

また、学歴証書しか持たない場合もある。それは卒業条件と学位取得の条件とは異なるからである。例えば、中国で学士学位を取得するには、国家の英語試験4級を通らなければならない。それが大学での英語教育とは別なので、大学で卒業に必要な単位を全て取得しても、4級試験が不合格なら、学位証書は取得できない。つまり、学歴証書しか持たないことは、ある正規な学習過程は経て修了したが、そのレベルの学位相当の学力には達していないことを意味する。両方の証書を持つことに超したことはないが、学位証書はその学位に相当する能力を持つことになったことを意味するため、学習経歴だけを証明する学歴証書より社会的な評価が高い。

現在中国には分野別で19種類の専門職学位がある（表1）。学士、修士、博士を別々で見ると、学士学位を出しているのは建築学のみである。修士レベルでは法律（JM, Juris Master、法学、非法学に分かれる）、教育学、工程(Master of Engineering)、建築学、臨床医学、工商管理（MBA、EMBA、IMBA）、農業広め(Master of Agriculture Extension)、獣医学、公共管理（MPA）、口腔医学(SMM, Master of Stomatological Medicine.)、公共衛生（MPH, Master of Pubic Health）、軍事学、会計、体育、芸術(MFA, Master of Fine Arts)、風景園林（MLA, Master of Landscape Architecture）、漢語国際教育(MTCSOL, Master of Teaching Chinese to Speakers of Other Languages)、翻訳(MTI, Master of Translation and Interpreting)、ソーシャルワーク(MSW)の19分野にわたる。博士レベルでは基本的に医学関係で、臨床医学、獣医学、口腔医学のみであった。2009年にそれまでごく一部の大学で試験的に養成していた教育博士、いわゆる Ed. Dが正式に認可され、専門職学位の一つになった。

表 1 各種専門職学位の創設年度

分野別 番号	専門職学位の種類	創設年度	分野別 番号	専門職学位の種類	創設年度
1	工商管理修士	1991	同 9	口腔医学博士	2000
2	建築学学士	1992	10	公共管理修士	2000
同 2	建築学修士	1995	11	公共衛生修士	2001
3	法律修士	1995	12	軍事修士	2002
4	教育修士	1997	13	会計修士	2004
5	工程修士	1997	14	体育修士	2005
6	臨床医学修士	1998	15	芸術修士	2005
同 6	臨床医学博士	1998	16	風景園林修士	2005
7	農業広め修士	1999	17	漢語国際教育修士	2007
8	獣医修士	1999	18	翻訳修士	2007
同 8	獣医博士	1999	19	ソーシャルワーク 修士	2009
9	口腔医学修士	2000	同 4	教育博士	2009

3.2 専門職学位教育の量的発展

中国における大学院の規模拡大は既に第二節で見た。では、中国における専門職学位の発展現状を量的に見てみよう。図 2 から分かるように、社会人を募集対象にしてからの時期、すなわち 1997 年から中国の専門職学位教育は迅速的に発展する時期になった。1991 年から 2007 年までに約 90 万人の学生が専門職学位教育を受けた。これには 425 の高等教育機関が関与し、本科（学部）レベル及びそれ以上の高等教育機関全体の 39% 程度を占めている。グラフの変化趨勢から、1997 年から 2006 年までの間には専門職学位教育にとっての急激な発展段階と言える。また、2007 年から専門職学位教育を受ける人数は穏やかな増加に入った事も分かる。

図 3 は新規卒業者と社会人別での専門職学位教育を受けた入学者数の推移を表した図である。図 2 と同じように、専門職学位の募集規模は社会人の募集を始めた 1997 年の 4551 人から 2007 年の 15 万 7400 人まで増加し、一年あたりの増長率は 38.2% に上る。この飛躍的な増加は主に社会人の再学習によるものである。また、図にはしなかったが、分野別で見ると、工程修士の入学者が最も多く、5 万 7 千人になり、工商管理修士（MBA）が 2 万 3 千人で、教育修士、法律修士と公共管理修士が合わせて一万人以上

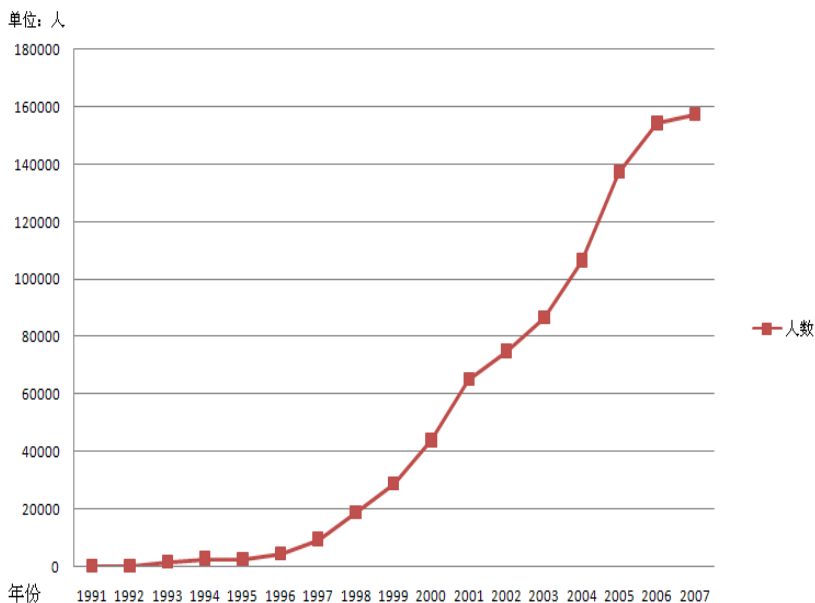


図2 専門職学位の在学者数の推移

で、この5種類の専門職学位だけで全体の9割近くを占めている。さらに、専門職学位の養成機関を詳しく見ると、211大学⁵⁾や985大学⁶⁾といった研究型大学で多く出されていることが分かる。2007年に専門職学位の入学者を一番多く募集したのは上海交通大学である。12の専攻分類⁷⁾に関しては、実践より学術性の高い哲学、歴史学、理学を除いて、全ての領域に広がっている。

15万7千人の専門職学位の入学者はまた大学院生全体の29.2%を占め、専門職学位は中国大学院教育の中でますます重要な役割を果たしていると言える。専門職学位入学者の75.5%が社会人学生で、これもまた中国大学院教育の構造に大きな変化を及ぼしている。社会人の参入によって、大学院教育の授業形態、教育内容などもあわせて変化しなければならない。また、社会人の参加は専門職学位が生涯学習の一環として重要な役割を果たしていることを意味している。

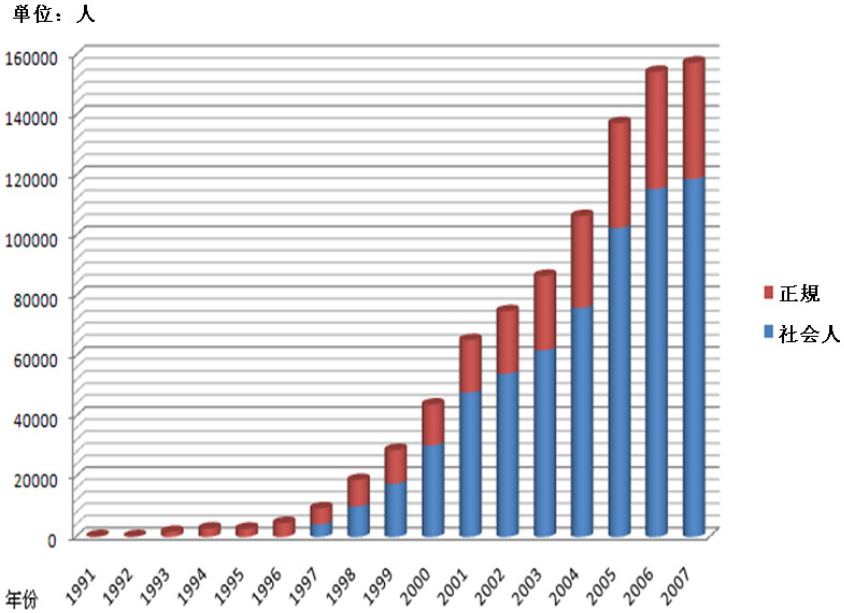


図3 専門職学位プログラムの入学者数の推移

3.3 専門職学位制度が直面している課題

現在、専門職学位教育はいくつの課題を抱えながら、更なる拡大を目指している。ここで、その課題を提示してみる。

一つは紛らわしい入学試験と修了時の証書の問題で、入口と出口の問題である。専門職学位教育の入学試験には10月連合試験と1月統一試験の2種類がある。受験者は二つの試験とも参加することができる。それは一つの試験で落ちるかもしれない人がもう一つの試験で受かるという可能性を生み出す。そして二つのルートで入学した者は多くの場合また同じ教育を受ける。両者の違いは学習修了時になると、また出てくる。統一試験で入った学生は学歴証書と学位証書の両方をもらえるに対して、前者は学位証書しかもらえない学生になってしまう。学歴証書と学位証書が分離しているのは中国特有の現象で、国際化が進む中で、こうした混乱を招きかねない制度を見直す必要があると思われる。

二つ目は認識上の問題である。専門職学位は比較的に新しい制度で、ア

アメリカの経験を参考に行われている事情もあり、一般人はおろか、大学や大学教員、また大学のアドミニストレーターでさえ専門職に関して誤解を持っている。その表れとしては、専門職学位を大学院教育の中に入れて考慮されていなくて、それが伝統的な大学院教育に及ばないものだと見られ、それに対する管理や要求も自然と下がり、専門職学位の質が保障できなくなる。また、専門職学位を職業訓練と見なし、集中的に大きいクラスでの授業を行ったりし、そして、経済的な利益を専門職学位設置の第一目標とする大学も少なくない。目前の利益にしがみついてしまう大学は将来のことを後まわししている。規模や利益を追求する一方で、失われたのは金銭で買えない専門職学位の質と大学の名誉である。そしてもう一つの過ちは専門職学位を学術学位とあまり区別せず、建築学以外に、ほとんどが職業資格と連動していないため、その特色が無視されがちである。職歴を生かさず、学術学位より低い位置に専門職学位を位置づけていることもしばしばである。入学者にマイナスのイメージを与えてしまい、その積極性を低めてしまう恐れがある。

こうした誤解が実際教育に携る教員にも影響を及ぼしている。例えば、ある専門職学位が制度的に制定されると、大学はチームを作って申請する。認可がおりてから、教員の専門職学位に対する認識がまだ不足で、専門職学位人材の養成に精力的にならない。教員の質の向上や学生の養成条件の改善に影響を与えてしまう。

三つ目は大学院教育全体の問題であるが、社会的需要が少ない伝統的な学科の比例が高く、急激な社会需要に対応する応用型の比例が少ない。学術修士の規模が大きくて、社会的需要との距離があり、供給と需要のバランスが不均衡している。そのあらわれとして、一方では、学術修士や学術博士が修了しても就職できない窮境に陥ってしまい、他方では、高水準の実用性を必要とする職業人材が欠乏している。

4. 考察－米国における専門職学位プログラムを参考に

専門職学位教育に関して、アメリカの歴史は長く、20世紀の初めまで遡る。特に第二次世界大戦後に、社会的需要が高まりにつれ、専門職学位教育が一層重要な位置に立ち、現在も大学院教育の中で以前大きな役割を果たしている。

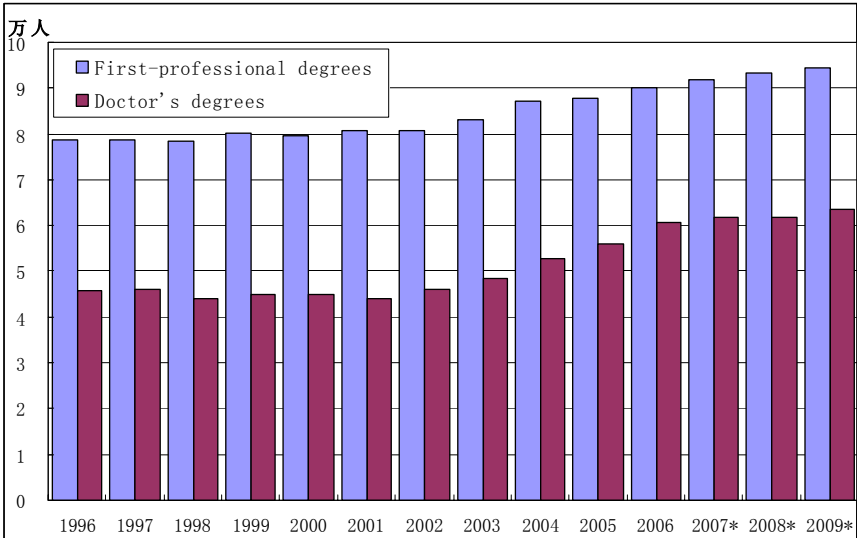


図4 米国における第一専門職学位と博士学位の授与数の推移⁸⁾

National Center for Education Statistics (NCES)が発表するCIP⁹⁾によると、アメリカの専門職学位に関するプログラムが学術的学位に関するそれより多い。現在、アメリカの修士のうち、学術的学位を取る者は15%に過ぎない。研究重視のハーバード大学の統計でも、2006年に学位取得した大学院生が4802人で、うち専門職学位が3694人で、全体の76.9%も占めていた¹⁰⁾。図4はアメリカにおける第一専門職学位と博士学位の授与数の推移を示したものである。この図から分かるように、博士課程にはいくつかの専門職学位を含んでいるにもかかわらず、その量が第一専門職学位より少ない。つまり、博士課程においても、学術的学位を取得し、科学研究に従事する研究者を養成するのが主な役割ではない。ちなみに、専門職学位に関して、現在修士段階だけでは70以上、博士段階では50以上の種類がある。アメリカの大学院教育は研究者養成の他にも大きく貢献していることが分かる。

アメリカでは、専門職学位教育が職業資格の認証と深く結びついている。例えば、法律の専門職学位を持たないと、弁護士受験の資格さえない。医学専門職学位を持たないと、医師の実習にも参加できないといった規則が

ある。専門職学位は職業資格の前提であり、職業の専門化を促す保障にもなっている。また、専門職学位教育を行う大学と関連業界との間に有効なインターアクションが行われ、専門職学位の人材養成基準と各業界の採用基準が一致するようにしている。

以上の中国における専門職学位の課題及びアメリカの経験から次のことが言える。

アメリカのみならず、諸外国の専門職学位教育を見ると、専門職学位教育と特定の職業資格証書との間に高い関連性がある。つまり、専門職学位教育は特定の職業資格の前提条件であり、それが専門職学位教育の目標でもある。しかし、さまざまな原因で、中国では専門職学位と職業資格との関連がまだ薄く。その原因としては、管轄の問題、利益分配の問題、そして認識の問題があると別¹¹⁾は指摘した。大量な財力（学術課程より授業料が高い）と人力（在職しながらの就学）を尽くして専門職学位を取得しても労働市場でのメリットが現れないため、学習者の積極性にダメージを与えてしまう恐れがある。それが近年、専門職学位の入学者が安定期に入った原因の一つと考えられる。

また、専門職学位が職業資格と結びつかないと、専門職学位教育も特定の業界の影響や制限を受けず、両者が共に繁栄する機会を失い、専門職学位が発展していく強力なモチベーションが乏しい。

大学院教育には、理論的知識を持つ研究者の養成も必要であるが、ハイレベルの管理者及び多様な実践的知識を持つ実業者の養成も必要である。大学院生、とりわけ修士卒業生の就職状況を見ると、大学や研究機関で研究活動をする者が少ない。世界経済不況による就職市場の縮小が昨年の大卒者や大学院卒業生の就職難を大きな問題として浮上させた。これに対して、教育部は2009年の大学院募集計画に5万名の全日制専門職学院修士以教育の募集計画を上乗せた。しかも、それを主に現役の大卒者を対象にした¹²⁾。専門職学位制度が今後ますます重視されるようになる。

5. おわりに

以上で見たように、中国の専門職学位は制度的にまだ短いであるが、その拡大は著しいものである。専門職学位の特徴として以下にまとめることができよう。

- 1) 現在主に修士レベルの教育で、学士レベルは建築学のみで、博士レ

ベルでは医学関係のと教育博士がある。

- 2) その学生の 7 割程度が社会人学生である。MBA、MPA、工程修士など一部 2-3 年の就職経歴を持つことを前提にしているほかに、高い学費も現役卒業者を遠ざけている。
- 3) 職業背景を持つ学科を対象にしているが、職業資格とは分離している。それが今後の専門職学位発展の妨げとなりかねない。

要するに、これまでの中国の専門職学位教育は主に社会人の学位レベルを高める需要を満たす役割を果たしていた。しかし、現役卒業者に開放することによって、専門職学位の入学対象者数が増加する一方になる。そして、一方での「学歴インフレ」、他方での学位取得者の「実践能力不足」がまさに今後の専門職学位の重要性を表している。修士卒業者が教育研究に従事する可能性がますます少なくなったことから、これからの大学院修士教育は専門職教育を中心に展開していく必要があると思われる。専門職学位教育の前景は明るい、持続可能な発展には前述した課題を早急に解決しなければならない。

注

- 1) 全国教育事業発展統計公報は中国教育部が毎年公表するもので、インターネットでも公表している。
http://www.edu.cn/shu_zi_494/, 2009.8.31.
- 2) 1998 年に募集拡大政策が出され、実施し始めたのが 1999 年度からである。
- 3) この間、高等教育機関の合併も盛んに行われたため、機関数の増加と合併による減少の相殺で全体の高等教育機関数に影響を及ぼした。それにしても、新設教育機関数が多くなかったことは事実である。
- 4) 中国は広い国土を有し、政策を一部で試行し、その後全国的に広げることがとられる措置である。
- 5) 1995 年から始まった、21 世紀に 100 校の一流大学を作ろうとするプロジェクトにリスト入りした大学を指す。それまでの重点大学に相当するものである。211 プロジェクトは主に重点学科、公共サービスシステムと大学の総合整備を建設する。現在全国に 112 校ほどあり、普通高等教育機関の 6%程度しか占めていないが、博士の 4/5、修士の 2/3 が 211 大学で養成されている。
- 6) 1998 年 5 月に江沢民が北京大学百周年記念大会で、掲げた若干の世界一流大学と一連の世界有名な高水準の研究型大学を建設するプロジェクトにリス

- ト入りした大学を指す。985 プロジェクトは主にシステムの改革、チーム作り、プラットフォームと基地の建設、条件サポート、こうくさい交流と合作に力を入れる。一期 34 校、二期 5 校、三期 5 校、現在 44 校ほどある。
- 7) 12 の専攻分類とは哲学、経済学、歴史学、法学、教育学、文学、理学、工学、農学、医学、管理学と軍事学である。
 - 8) http://nces.ed.gov/programs/digest/d08/tables/dt08_268.asp, 2009.8.31.
博士学位には Ph.D.、Ed.D.等が含まれる。
 - 9) <http://nces.ed.gov/pubs2002/2002165.pdf>, 2009.8.31.
 - 10) <http://www.hno.harvard.edu/gazette/>, 2009.8.31.
 - 11) 別敦榮、趙映川、閻建璋、2009、「専門職学位の概念解釈及びその位置づけ」『学位と大学院生教育』30(6): 57。
 - 12) <http://yz.chsi.com.cn/kyzx/zyss/200902/20090216/17472656.html>, 2009.8.31.

参考文献

- Anne Marie Delaney, 1997, "Quality assessment of Professional Degree Programs", *Research in Higher Education*, 38(2): 241-64.
- 別敦榮・陶学文、2009、「わが国における専門職学位教育の質的保証システムに関する反省と創新」『高等教育研究』30(3): 42-8。
- 別敦榮・趙映川・閻建璋、2009、「専門職学位の概念解釈及びその位置づけ」『学位と大学院生教育』30(6): 52-9。
- 鄧光平、2006、『我が国の専門職学位設置に関する政策分析』華中科技大学高等教育学専攻博士論文。
- 高益民、2007、「日本専門職学位教育の初歩的な発展」『比較教育研究』5: 33-7。
- 橋本鉦市、2002、「米国における専門職学位プログラム－教育系プロフェッショナルスクール」の Ed. D－」『学位研究』6: 95-104。
- 申姍姍、2009、「専門性から見た専門職学位」『学位と大学院生教育』7: 61-5。
- 汪輝、2009、「日本の専門職学位改革に関する特徴と課題」『学位と大学院生教育』1: 72-7。
- 翟亜軍・王戦軍、2006、「我が国の専門職学位に関する主な問題」『学位と大学院生教育』5: 23-7。
- 張洪清、2009、「専門職学位大学院生のシステム管理に関する困境と対策」『遼寧行政学院が学報』11(11): 121-3。
- 張建功・張振剛、2008、「米国における専門職学位大学院生教育の学位構造及び

- 示唆」『高等教育研究』29(7): 104-9。
- 鄭蓮敏、2006、「中外専門職学位教育展開の比較研究」『現代教育科学』5: 31-4。
- 鐘秉林・張斌賢、2009、「我が国専門職学位発展における新しい突破」『中国高等教育』3, 4: 37-9。
- 邹碧金・陳子辰、2000、「我が国の専門職学位の誕生と発展」『高等教育研究』5: 49-52。